

第1章 子どもたちとメディア

鬼頭 尚子*

1. はじめに

本章は、国立教育研究所が、平成11年10～12月に実施した「児童・生徒調査」(詳細は、『生涯学習社会におけるメディア・リテラシーに関する総合的研究(学校教育・中間報告)』国立教育研究所,平成12年3月。および『生涯学習社会におけるメディア・リテラシーに関する総合的研究(最終報告書)―学校教育編―』国立教育政策研究所,平成14年3月。を参照)の結果をもとに、「子どもたちのメディア利用の現状・体験・意識」について、報告する。この調査では、調査対象校を選定するにあたり、対象校が都市部に位置するか地方部に位置するかを勘案して、コンピュータに関する指導が、比較的積極的に行われていると判断される学校を都道府県教育委員会・教育研究センター等の協力を得て選定し、調査対象校とした。調査対象者は、調査対象校における小学校5年生、中学校2年生、高校2年生であり、調査内容は、「各種メディアの所有状況」「使用状況」「使用上の困難さ」「メディアからの情報の受け取り方」「有害情報への対応・意見」「授業におけるメディアの利用状況」等であった。「児童・生徒調査」の分析対象者は、以下の通りである。

表1-1 調査対象者

	小学5年生		中学2年生		高校2年生		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
女子	386	46.0	547	47.9	1364	53.8	2297	50.8
男子	452	53.8	586	51.3	1168	46.1	2206	48.8
無回答	2	0.2	10	0.9	4	0.2	16	0.4
合計	840	100.0	1143	100.0	2536	100.0	4519	100.0

2. メディアの使用状況

(1) 携帯電話, FAX, パソコン, インターネット, メールアドレスの使用状況

(図1-1)

まず子どもたちが、各種メディアをどれぐらいの頻度で使用しているのかを見てみよう。本調査では、12種類のメディアに関して使用の頻度をたずねているが、ここでは、携帯電話、FAX、パソコン、インターネット、メールアドレスの使用状況について、報告したい。それぞれのメディアについて、「ほぼ毎日使う」「ときどき使う」「使わない」のいずれかを一つ選んでもらった。

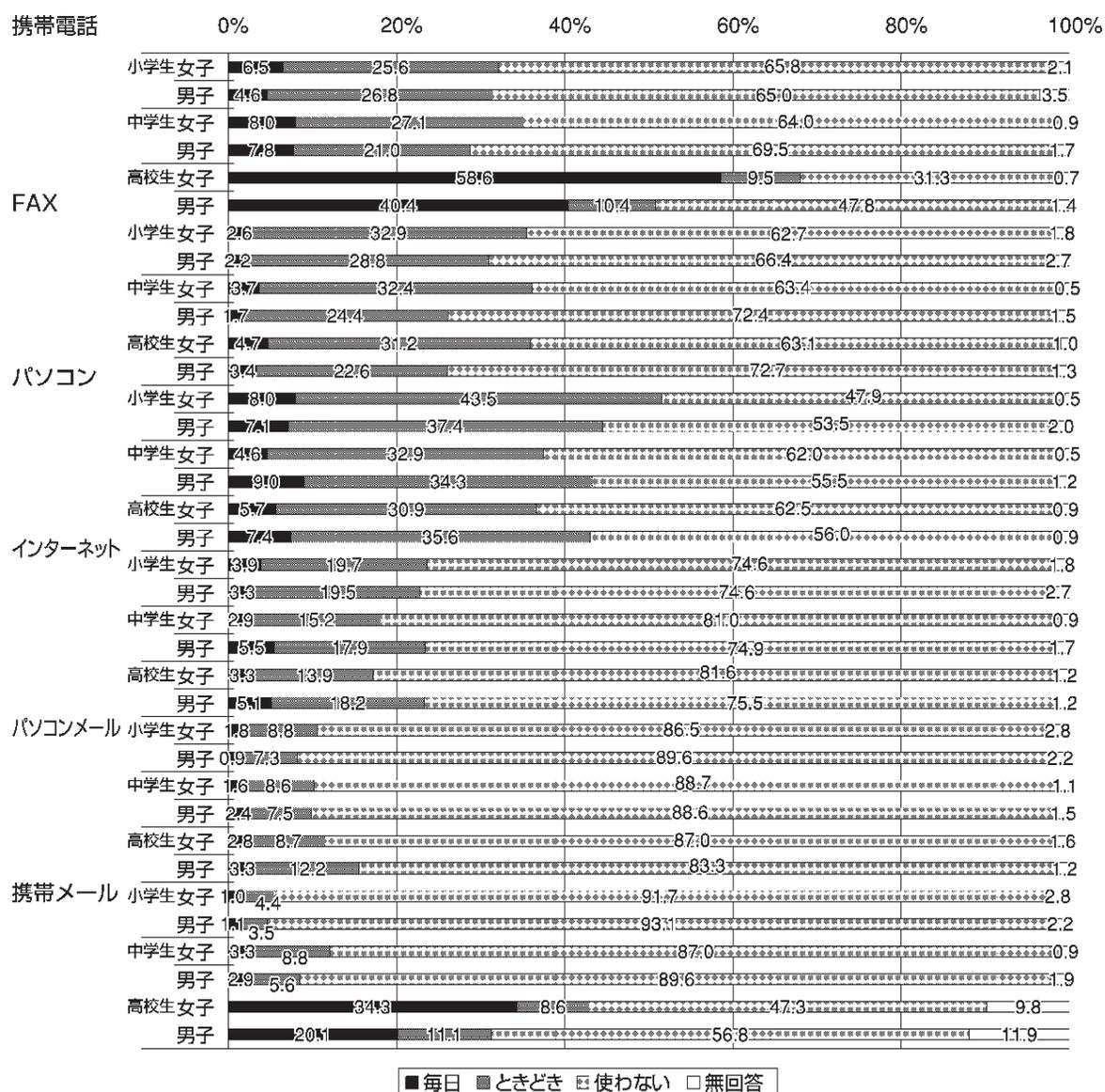
* 国立教育政策研究所生徒指導研究センター

「携帯電話」に関しては、高校生になると「ほぼ毎日」使用すると回答した人々の割合が多くなる。高校生女子の58.6%が、高校生男子の40.4%が「ほぼ毎日」使用すると回答している。「パソコン」は、どの学年においても、「ほぼ毎日」使用すると回答した人々の割合は、1割に満たない。中学生男子が「ほぼ毎日」と回答した割合がもっとも高く、9.0%となっている。「携帯電話によるメール」に関しては、高校生女子の34.3%が、高校生男子の20.1%が、「ほぼ毎日」使用すると回答している。

3. メディア使用の難しさ

(1) 本、新聞、ラジオ、テレビ、ビデオ、TVゲームの使用の難しさ

本調査では、12のメディアについて、そのメディアを実際に使う際に「難しい」と感じるかどうかをたずねた。それぞれのメディアについて、使うことを難しいと「いつも感じる」「ときどき感じる」「感じない」の三つの選択肢から、あてはまるものを一つ選んでもらった。



注) 小学生女子 n=386 男子 n=452 中学生女子 n=547 男子 n=586 高校生女子 n=1364 男子 n=1168

図 1-1 問 1(2)メディアの使用状況

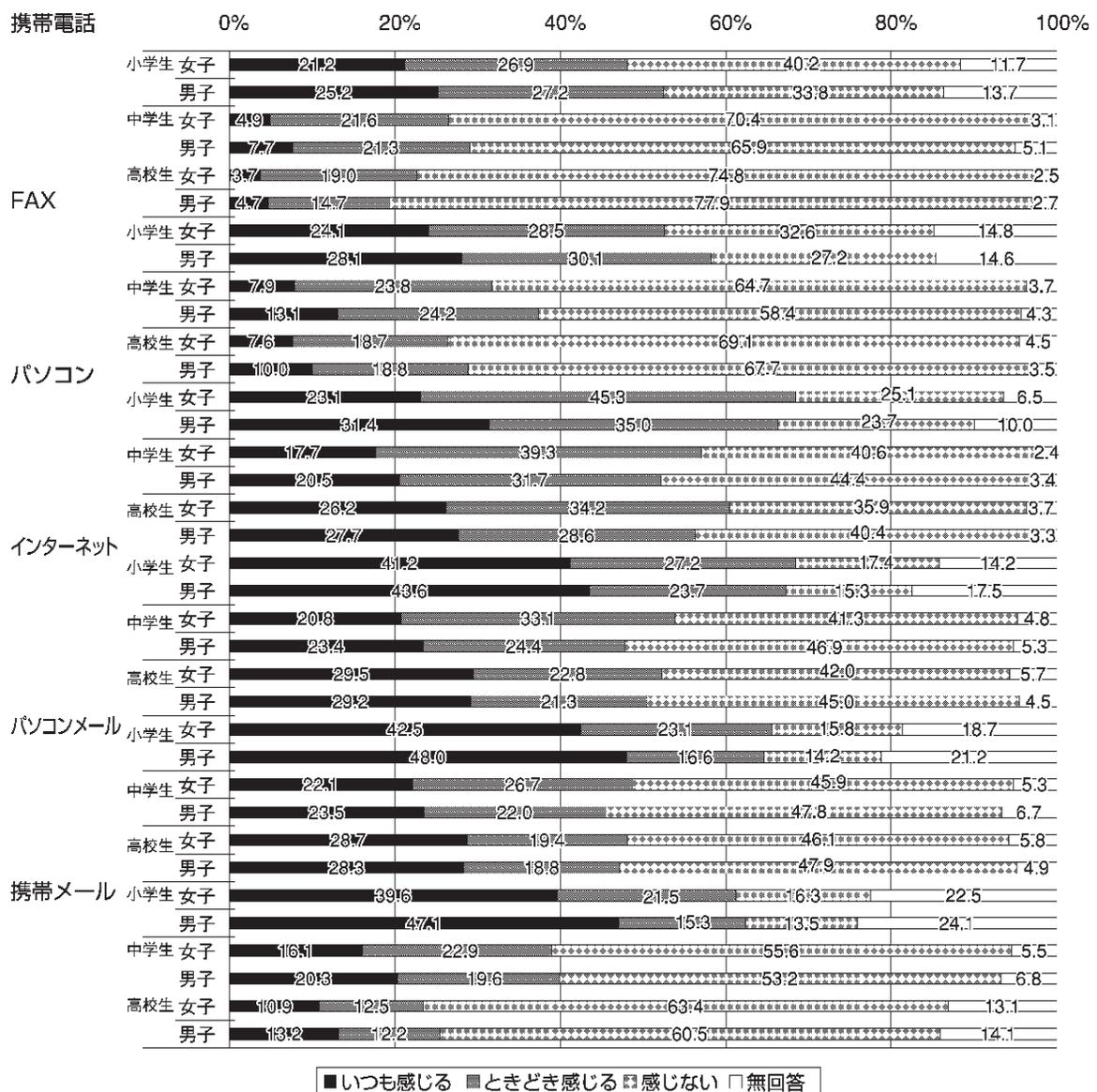
「本」に関しては、使用の難しさを「いつも感じる」と回答した人々の割合はほとんどない。小学校では、女子の32.4%、男子の37.6%が「ときどき感じる」と回答している。また高校生女子の29.2%が「ときどき感じる」と回答している。「新聞」に関しては、小学生女子の15.8%、小学生男子の20.4%が難しさを「いつも感じる」と回答している。どの学校段階でも、「本」と比べると「新聞」の方が使用の際、難しさを感じていることがわかる。

「テレビ」「ビデオ」に関しては、どの学校段階においても、ほとんど使用の難しさを感じていないことがわかる。ただ、「ラジオ」に関しては、小学生女子の6.0%が、小学生男子の5.8%が、難しさを「いつも感じる」と回答している。

(2) 携帯電話, FAX, パソコン, インターネット, メールアドレスの難しさ

(図1-2)

「携帯電話」や「ファクシミリ」に関しては、小学生の2割以上が、使用の際、難しさを「いつも感じる」と回答しているが、これは小学生が「携帯電話」と「ファクシミリ」を使用



注) 小学生女子 n=386 男子 n=452 中学生女子 n=547 男子 n=586 高校生女子 n=1364 男子 n=1168

図1-2 問1(3)メディア使用のむずかしさ

する機会が少ないことと関係があるであろう。「パソコン」は、女子よりも男子の方が使用の際、難しいと「いつも感じている」。小学生男子の31.4%、高校生男子の27.7%が難しいと「いつも感じている」ことがわかる。「インターネット」に関しては、学年別に見ると、小学生が難しさを感じており（女子41.2%、男子43.6%）、ついで高校生が難しさを感じている（女子29.5%、男子29.2%）。

4. メディアからの経験

(1) 「元気が出たことがある」(表1-2)

本調査では、新聞や雑誌、テレビなどのメディアから得た情報によって、子どもたちが、どのような経験をしたことがあるかをたずねている。本調査では「本（教科書を除く）」「新聞」「雑誌」「TVゲーム」「インターネット」の6種類のメディアを選び、それぞれのメディアについて、「元気が出た事」「勉強に役立てた事」「遊びに役立った事」があるかどうかを「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」の四つの選択肢の中から一つ選んでもらった。ここでは誌面の都合から、「元気が出た事」および「勉強に役立てた事」について報告する。

「本」を読んで「元気が出た」ことが「よくある」と回答した割合は、学年や性別に関係なく、2割強であった。「雑誌」を読んで「元気が出た」ことが「よくある」と回答した割合は、中学生と高校生の女子に多く、中学生女子32.3%、高校生女子26.8%であった。

「テレビ」に関して、「元気が出た」ことが「よくある」と回答した割合がもっとも高かったのは、中学生女子であり49.2%であった。中学生と高校生に関しては、女子の方が男子より「元気が出た」ことが「よくある」と回答している割合が高い。「テレビゲーム」は、女子よりも男子の方が「よくある」と回答している割合が高い。この傾向は小学生において顕著である。小学生では、男子54.6%、女子21.2%であり、男子の割合は女子の二倍以上である。

「インターネット」で「元気が出たこと」があると回答した割合は、学年や性別によっては、ほとんど違いはなかった。中学生と高校生に比べ、小学生が「よくある」「ときどきある」と回答する割合が高かった。

(2) 「勉強に役立ったことがある」(表1-3)

「本」が「勉強に役立ったこと」が「よくある」と回答した割合がもっとも高かったのは、小学生女子で40.1%であった。小学生から中学生、高校生になるにつれて、「よくある」と回答する割合は低くなる。「新聞」についても小学生女子が「よくある」と回答した割合がもっとも高く、24.8%であった。「雑誌」は、「本」や「新聞」に比べると、「よくある」と回答した割合は低かった。

「テレビ」が「勉強に役立ったこと」が「よくある」ともっとも高い割合で回答したのは小学生女子で、31.5%であった。「テレビゲーム」は、男子の約2割が「勉強に役立つこと」があると回答している。「インターネット」が「勉強に役立ったこと」が「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、小学生がもっとも高かった。「よくある」と回答した小学生女子は26.5%、小学生男子は28.0%であった。中学生、高校生になるにつれて、この割合は低くなっていく。

表1-2 メディア経験「元気が出たことがある」

			よくある		ときどきある		あまりない		まったくない		合 計	
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
本	小学生	女子	89	23.4	167	43.8	90	23.6	35	9.2	381	100
		男子	105	23.3	141	31.3	121	26.9	83	18.4	450	100
	中学生	女子	129	23.8	227	41.8	143	26.3	44	8.1	543	100
		男子	124	21.4	184	31.8	169	29.2	102	17.6	579	100
	高校生	女子	333	24.4	652	47.9	305	22.4	72	5.3	1362	100
		男子	234	20.1	486	41.7	306	26.3	139	11.9	1165	100
新聞	小学生	女子	11	2.9	58	15.3	155	40.9	155	40.9	379	100
		男子	19	4.3	68	15.4	142	32.2	212	48.1	441	100
	中学生	女子	18	3.3	79	14.6	240	44.3	205	37.8	542	100
		男子	25	4.3	77	13.4	221	38.4	253	43.9	576	100
	高校生	女子	39	2.9	234	17.3	630	46.5	453	33.4	1356	100
		男子	62	5.3	183	15.8	464	40.0	450	38.8	1159	100
雑誌	小学生	女子	74	19.6	100	26.5	111	29.4	93	24.6	378	100
		男子	69	15.6	96	21.8	96	21.8	180	40.8	441	100
	中学生	女子	175	32.3	185	34.1	129	23.8	53	9.8	542	100
		男子	100	17.3	157	27.2	173	30.0	147	25.5	577	100
	高校生	女子	361	26.8	583	43.2	332	24.6	73	5.4	1349	100
		男子	244	21.0	397	34.2	352	30.3	168	14.5	1161	100
テレビ	小学生	女子	177	46.7	118	31.1	57	15.0	27	7.1	379	100
		男子	216	48.1	131	29.2	53	11.8	49	10.9	449	100
	中学生	女子	266	49.2	182	33.6	73	13.5	20	3.7	541	100
		男子	218	37.5	190	32.7	105	18.1	68	11.7	581	100
	高校生	女子	650	47.8	547	40.3	133	9.8	29	2.1	1359	100
		男子	422	36.4	460	39.7	196	16.9	82	7.1	1160	100
TVゲーム	小学生	女子	79	21.2	76	20.4	95	25.5	122	32.8	372	100
		男子	244	54.6	91	20.4	48	10.7	64	14.3	447	100
	中学生	女子	76	14.0	91	16.8	164	30.3	210	38.8	541	100
		男子	229	39.4	135	23.2	113	19.4	104	17.9	581	100
	高校生	女子	156	11.7	230	17.2	393	29.4	559	41.8	1338	100
		男子	284	24.4	290	24.9	328	28.2	261	22.4	1163	100
インターネット	小学生	女子	29	8.4	50	14.5	71	20.6	195	56.5	345	100
		男子	28	7.3	61	15.9	80	20.8	215	56.0	384	100
	中学生	女子	33	6.4	65	12.5	100	19.3	320	61.8	518	100
		男子	42	7.6	56	10.1	115	20.8	340	61.5	553	100
	高校生	女子	77	6.0	138	10.8	180	14.1	884	69.1	1279	100
		男子	82	7.3	110	9.8	196	17.5	734	65.4	1122	100

表1-3 メディア経験「勉強に役立ったことがある」

			よくある		ときどきある		あまりない		まったくない		合 計	
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
本	小学生	女子	153	40.1	159	41.6	49	12.8	21	5.5	382	100
		男子	142	31.5	187	41.5	77	17.1	45	10.0	451	100
	中学生	女子	137	25.3	249	45.9	115	21.2	41	7.6	542	100
		男子	151	26.0	235	40.4	113	19.4	82	14.1	581	100
	高校生	女子	245	18.0	688	50.5	340	25.0	89	6.5	1362	100
		男子	252	21.6	531	45.6	271	23.3	110	9.5	1164	100
新聞	小学生	女子	94	24.8	159	42.0	78	20.6	48	12.7	379	100
		男子	97	21.9	167	37.7	90	20.3	89	20.1	443	100
	中学生	女子	105	19.4	237	43.9	124	23.0	74	13.7	540	100
		男子	122	21.1	206	35.7	145	25.1	104	18.0	577	100
	高校生	女子	204	15.0	652	48.1	362	26.7	138	10.2	1356	100
		男子	207	17.9	481	41.5	320	27.6	151	13.0	1159	100
雑誌	小学生	女子	28	7.4	70	18.6	153	40.6	126	33.4	377	100
		男子	37	8.4	69	15.7	141	32.0	193	43.9	440	100
	中学生	女子	48	8.9	117	21.7	252	46.8	122	22.6	539	100
		男子	66	11.5	107	18.6	226	39.2	177	30.7	576	100
	高校生	女子	89	6.6	327	24.3	665	49.5	263	19.6	1344	100
		男子	131	11.3	304	26.3	474	41.0	247	21.4	1156	100
テレビ	小学生	女子	120	31.5	159	41.7	76	19.9	26	6.8	381	100
		男子	120	26.7	186	41.4	80	17.8	63	14.0	449	100
	中学生	女子	134	25.0	245	45.6	119	22.2	39	7.3	537	100
		男子	154	26.5	230	39.6	123	21.2	74	12.7	581	100
	高校生	女子	243	17.9	683	50.4	335	24.7	95	7.0	1356	100
		男子	224	19.3	511	44.1	302	26.1	122	10.5	1159	100
TVゲーム	小学生	女子	12	3.3	19	5.1	95	25.7	243	65.9	369	100
		男子	45	10.1	56	12.6	100	22.5	244	54.8	445	100
	中学生	女子	10	1.8	29	5.4	160	29.6	342	63.2	541	100
		男子	58	10.0	92	15.8	182	31.3	249	42.9	581	100
	高校生	女子	23	1.7	75	5.6	309	23.1	928	69.5	1335	100
		男子	62	5.4	186	16.1	405	35.0	505	43.6	1158	100
インターネット	小学生	女子	92	26.5	94	27.1	50	14.4	111	32.0	347	100
		男子	108	28.0	90	23.3	55	14.2	133	34.5	386	100
	中学生	女子	50	9.7	104	20.1	87	16.8	277	53.5	518	100
		男子	64	11.6	90	16.3	94	17.0	305	55.2	553	100
	高校生	女子	65	5.1	172	13.5	176	13.8	865	67.7	1278	100
		男子	80	7.2	174	15.6	159	14.2	704	63.0	1117	100

5. メディアからの情報の信頼性

(1) 「本当のことと違う」(図1-3)(図1-4)

メディアからの情報に対して、子どもたちは、どのような印象を持っているのだろうか。「本」「新聞」「雑誌」「テレビ」「インターネット」の5種類のメディアからの情報によって、「本当の事と違う」「考え方が偏っている」「人の気持ちを傷つけている」「報道が行き過ぎている(中学生・高校生のみ)」と感じたことがあるかどうかを、「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」の四つの選択肢の中から一つ選んでもらった。他のメディアに比べ「インターネット」は利用されている頻度が少ないという点に注意しながら、以下の結果を見てみたい。ただし、ここでは紙面の都合上、「本当の事と違う」と「人の気持ちを傷つけている」のみ報告する。

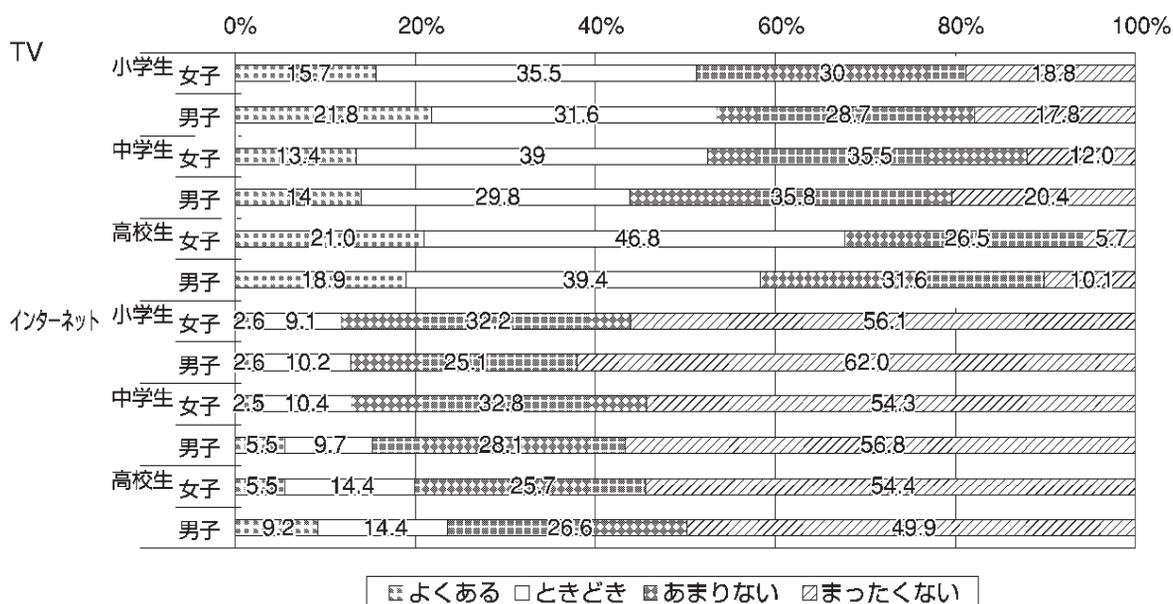
「本」に関しては、「よくある」と回答した割合がもっとも高かったのは、小学生男子であり19.6%、ついで高かったのが、中学生男子で16.4%であった。どの学年でも、女子に比べ、男子が「よくある」と回答している割合が高い。「雑誌」は、学年が上がるにつれて、「よくある」と回答している割合が高くなってきている。「新聞」は、「本」「雑誌」に比べると、「よくある」と回答している割合は少なくもっとも多い高校生男子であっても7.8%に過ぎないが、「ときどきある」と回答している割合は、小学生男子(16.1%)を除けば、2割を超えている。

「テレビ」からの情報が「本当のことと違う」ともっともよく感じているのは、小学生男子であり21.8%であった。ついで「よくある」と回答した割合が高かったのは高校生女子で21.0%となっている。「インターネット」に関しては、他のメディアに比べ、「よくある」および



注) 本 : 小学生女子 n=381 男子 n=449 中学生女子 n=544 男子 n=579 高校生女子 n=1357 男子 n=1161
 新聞: 小学生女子 n=380 男子 n=441 中学生女子 n=542 男子 n=579 高校生女子 n=1353 男子 n=1158
 雑誌: 小学生女子 n=377 男子 n=441 中学生女子 n=541 男子 n=575 高校生女子 n=1355 男子 n=1159

図1-3 問2(2)ア 本当のことと違う



注) TV：小学生女子 n=383 男子 n=449 中学生女子 n=543 男子 n=578 高校生女子 n=1358 男子 n=1160
 インターネット：小学生女子 n=342 男子 n=382 中学生女子 n=512 男子 n=549 高校生女子 n=1260 男子 n=1107

図 1-4 問 2 (2)ア 本当のことと違う

「ときどきある」と回答した人々の割合は低いが、これは使用の頻度があまり多くないこととも関係あるであろう。「インターネット」からの情報に対して「よくある」と回答した割合がもっとも高かったのは、高校生男子であり9.2%であった。

(2) 「人の気持ちを傷つけている」(図 1-5) (図 1-6)

「本」「新聞」「雑誌」といった活字メディアの中では、「雑誌」に対して「よくある」と回答した人々の割合がもっとも高かった。「本」に関しては、「よくある」と回答した人々の割合は、どの学年でも 1 割以下であった。「新聞」では、高校生男子が「よくある」と回答した割合がもっとも高く、18.7%であった。ついで高校生女子14.1%となっている。「雑誌」では、高校生男子の27.2%が、高校生女子の24.2%が「よくある」と回答している。

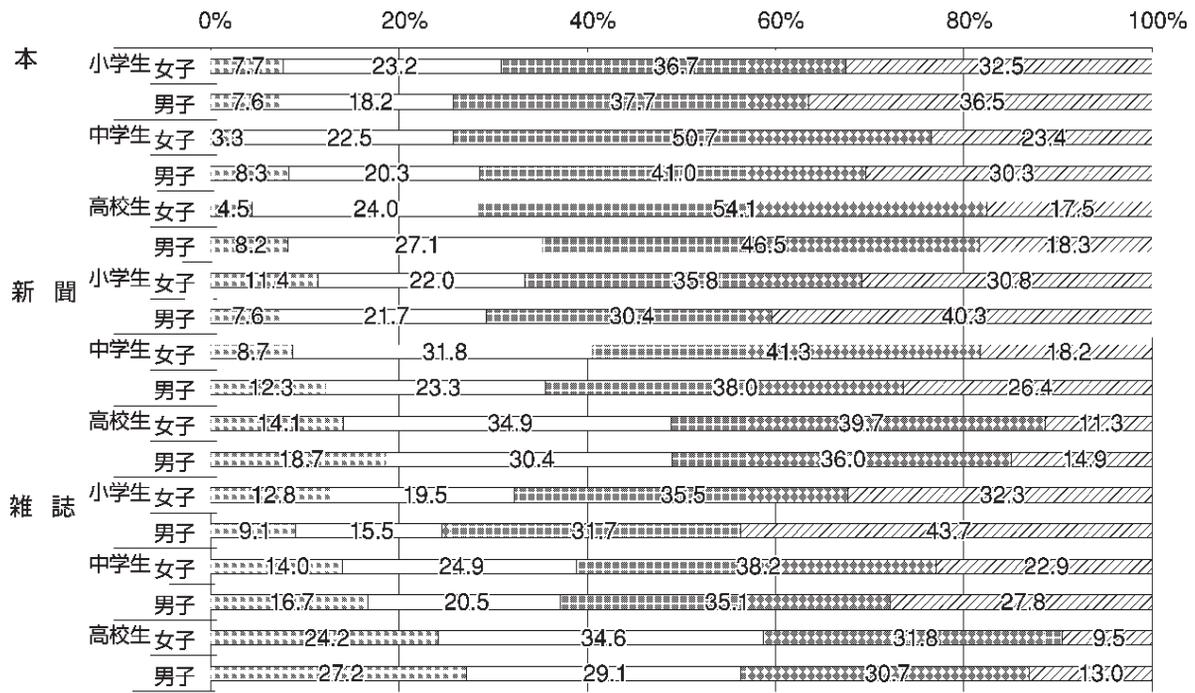
「テレビ」に関しては、他のメディアに比べて「よくある」と回答した割合がもっとも高かった。高校生の三人に一人は「よくある」と回答している（高校生女子33.3%、高校生男子31.1%）。「インターネット」でも高校生の男子が「よくある」と回答した割合がもっとも高く、14.1%であった。ついで高校生女子8.9%となっている。

6. まとめ

以上、本章では、平成11年10～12月に国立教育政策研究所が実施した「児童・生徒調査」の結果の一部を、男女別、学年別に見てきた。メディアによっては、学年や性別を問わず、同じ傾向を示すものもあったが、男女の差が大きかった項目について、二つ印象に残った点を指摘しておきたい。

まず、「メディアの使用の状況」における「テレビゲーム」に関しては、学年別男女別に見ると、小学校の男子において、使用頻度が最も高かった。かつ「テレビゲーム」に関しては、男女差も、もっとも大きかった点である。

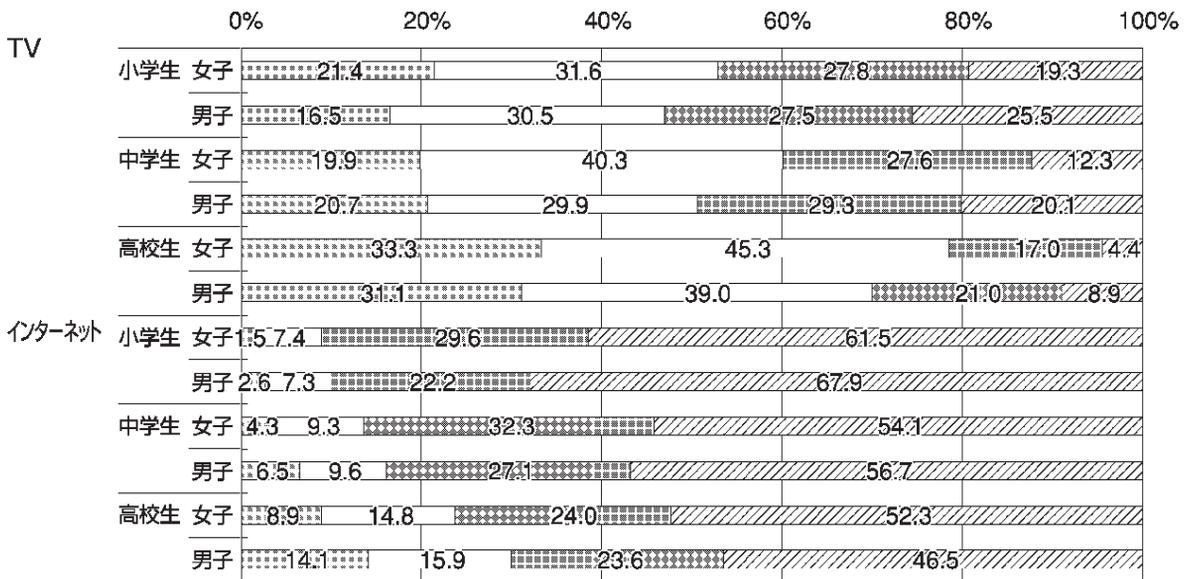
次に、中学生および高校生の女子に関しては、「雑誌」の使用頻度が高く、中高生の女子が



よくある □ときどき ■あまりない ▨まったくない

注) 本 : 小学生女子 n=379 男子 n=446 中学生女子 n=542 男子 n=580 高校生女子 n=1356 男子 n=1164
 新聞 : 小学生女子 n=377 男子 n=437 中学生女子 n=538 男子 n=579 高校生女子 n=1356 男子 n=1157
 雑誌 : 小学生女子 n=375 男子 n=439 中学生女子 n=542 男子 n=576 高校生女子 n=1357 男子 n=1158

図1-5 問2(2)ウ 人の気持ちを傷つけている



よくある □ときどき ■あまりない ▨まったくない

注) TV : 小学生女子 n=374 男子 n=443 中学生女子 n=544 男子 n=581 高校生女子 n=1356 男子 n=1163
 インターネット : 小学生女子 n=338 男子 n=383 中学生女子 n=514 男子 n=550 高校生女子 n=1260 男子 n=1103

図1-6 問2(2)ウ 人の気持ちを傷つけている

「雑誌」から受ける影響は、小さくないといえる点である。

本章は、平成11年秋に実施した調査の結果を基に記述してきた。メディアの中でも、とりわけ携帯電話および携帯電話のメール、パソコン、インターネットの利用状況は、半年の単位で状況が大きく変化する。今後さらにこの問題を検討するためには、平成11年調査時から、児童・生徒のメディア使用の状況がどれぐらい変容しているか、を比較し、その変容の意味を検討することも重要であろう。